

## 普及活動情勢報告（平成31年4月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

### JA 集荷場で「農福連携」見学会を開催



キュウリの箱詰め方法を熱心に聞く参加者達

3月28日、JA高知県春野営農経済センター労働力確保対策PT会が、キュウリ集荷場において「農福連携」見学会を開催しました。春野町近隣の5事業所等から7名の職員と4名の利用者が参加し、あらかじめ選定しておいた3作業を見学して貰いました。

その後、普及所の司会で行った意見交換では、勤務条件などに関する具体的な質問が出され、農業側の受入体制もまだまだ不十分であることを実感しました。

この見学会をきっかけに、1名の方が4月から雇用されることも決まりました。普及所では次のステップとして、農家の元で見学会・体験会の開催をPT会に投げかけていきたいと思えます。

### 梅ノ木地区の集落活動センター設立に向けて ～設置検討委員会が立ち上がる～



設立に向けた検討

4月23日、高知市鏡梅ノ木地区では、集落活動センターの設立に向けて、設置検討委員会を立ち上げました。普及所は、（農）梅ノ木ファームの理事会で、集落活動センターにおける集落営農の役割、加工等今後の取り組みへの助言をしてきました。

規約、役員が決まり、来月から役員等を中心にした運営委員会で内容を決めていくことになりました。若い人への負担増に対する危惧の声もあり、現在、すでに取り組んでいる活動を中心に、集落活動センターを検討していく予定です。

今後普及所は、集落営農組織と集落活動センターの一体的な連携を進めるため、関係機関と一緒に支援していきます。

### キュウリ就農希望者の面談を開催しました



就農希望者の元気な宣言

4月10日、JA高知県春野営農経済センターで、キュウリの農家研修希望者1名に対し、6名の指導農業士及び関係機関で面談を行いました。研修生からは、就農への強い想いなどの宣言があり、その後、指導農業士から「自分が一からやると厳しいのが農業」、「せっかく春野で農業をするので、地域に関わり、地域にかわいがられる農業者になってほしい」など就農に向けた心得などアドバイスがありました。

普及所は、マッチングから実践研修に向け、順調な研修やスムーズな就農につながるよう支援を続けていきます。

## 良い新高梨の収穫を目指して～春野果樹部会研修会の開催～



新高梨の開花調査

4月12日、高知市春野地区で春野果樹部会の通常総会と研修会が開かれ、部会員等7名が参加しました。

普及所は、開花状況の調査より、開花異常が多く見られ、暖冬のため梨の休眠量が不足していることが原因であることや今後の摘果方法について説明しました。部会員からは、「着果量は平年並みに十分ある」などの意見が出され、「今年もがんばって良い梨を収穫しよう」と全員が意識統一しました。

普及所は、今後とも同部会の研修会や個別指導を通じ、部会の発展を支援していきます。

## ミョウガ視察研修が開催されました



ハウス内を視察した参加者

3月20日、土佐山ハウス茗荷生産組合とJA高知市大津園芸部が合同でハウスミョウガ視察研修を開催し、17名が参加しました。普及所の企画で農業担い手育成センターとJA土佐くろしお管内の2戸の生産者を訪問し、ハウス内で活発な意見交換が行われました。参加者からは、「これからの季節、暑さ対策のポイントは？」など様々な質問に対し、訪問先の方々からわかりやすく丁寧な回答をいただきました。帰りのバスの車内では、「先進地を視察して刺激を受けた」、「細霧装置えいねえ」などの感想が聞かれました。

今後も普及所は、研修会や巡回でハウス内の見える化を推進していきます。

## イタドリの栽培や加工の試験に取り組んでいます！



立茎し始めの様子

4月5日から19日にかけて、高知市鏡地区のイタドリ栽培の株間について試験しているほ場で、生育調査を行いました。地下茎を植え付けて1年になるイタドリは、先月の20日頃から立茎し始めました。3月末の寒波による被害を受けましたが、その後は順調に伸び続けています。今の時点では、株ごとに立茎時期や立茎数のばらつきが大きくなっています。

今後、株のひろがりなどの生育調査と雑草防除の労力への影響についての調査を続けていきます。また、収穫したイタドリについても、急速冷凍庫を利用した場合に、皮剥作業の省力化や食味への影響を調査していきます。